

米国抗体開発バイオベンチャーとの国内総代理店契約を締結

2019年9月9日

当社は、設立より関わってきた AbwizBio Inc. (本社: 米国カリフォルニア州、以下 Abwiz) との間で、Abwiz が提供する革新的抗体開発および抗体エンジニアリングサービスの日本国内における独占的販売契約を締結し、国内総代理店となりました。

この契約締結を通じて、当社は Abwiz が持つ高品質なウサギモノクローナル抗体の販売、カスタマイズ抗体開発、抗体親和性向上サービスを日本国内で提供して参ります。

Abwiz が得意とするウサギ抗体は、マウスと比較して抗体の多様性、抗原への親和性が高いとされております。しかし、ハイブリドーマ法での抗体発現が悪く、システインを含む構造的特徴から、従来のファージディスプレイ法でのモノクローナル抗体の取得は困難でした。Abwiz は、独自技術の WizAmp™ 法 (US 9,890,414) により、免疫した動物が持つ抗体遺伝子を均一かつ効率的に増幅し、個別に抗体ライブラリーを作成、ウサギに特化したファージディスプレイ法により、目的とする機能抗体を選抜することが可能です。現在、研究用試薬として抗リン酸化タンパク質抗体を中心に約 100 種類の品目を有し、更に体外診断用医薬品を含む複数の医薬品用途の抗体開発の実績も積み重ねております。なお、抗体は当社高萩工場でも製造する計画です。

また、Abwiz は抗体遺伝子のエンジニアリング技術を応用し、次世代の抗体親和性向上技術である SStage Enhanced Affinity Maturation (STEAM) システムを開発しました。STEAM は、ユーザーが取得した既存抗体の抗原結合能を増強するもので、CDR ウォーキングのような従来の親和性向上技術を上回るシステムとして、製薬企業を中心にこれまでに数多くのサービスを提供してきております。

現在 Abwiz では、従来作製が困難とされてきた G タンパク質共役受容体 (GPCR) をターゲットとする抗体、ラクダ科動物由来の nanobody (VHH 抗体) の作製基盤技術の開発が進んでおり、順次サービスを開始する予定です。

➤ **AbwizBio Inc. の HP はこちら**

<https://www.abwizbio.com>

➤ **研究用モノクローナル抗体のラインナップはこちら**

<http://antibody.bioimpact.jp/antibody/gid:kyokutoseiyaku>

➤ **カスタマイズ抗体開発、抗体親和性向上サービスはこちら**

<https://ls.ipros.jp/product/detail/2000458881>

【お問い合わせ先】

極東製薬工業株式会社 産業営業部

TEL: 03-5645-5663 FAX: 03-6684-9453 e-mail: ab@kyokutoseiyaku.co.jp